

「日本、モンゴル、インド、中国における共生的精神文化の諸相」

日時：平成29(2017)年1月28日(土) 午後3時(15:00) 開会

場所：東洋大学白山キャンパス6号館1階 第3会議室

プログラム

講演(15:05~17:05)

「福島」と「フクシマ」

五十嵐伸治 先生

(宮城学院女子大学・仙台白百合女子大学非常勤講師)

講演要旨

東日本大震災は、青森・岩手・宮城・福島・茨城県沿岸に甚大な被害を与えた。特に、岩手や宮城や福島沿岸に押し寄せた巨大な津波によって、3県で死者、行方不明者は2万人以上という犠牲者が出た。このような膨大な被害が出た東北3県の中で、福島だけに「フクシマ」と表示される言辞が付加された。それは、東京電力の福島第一原子力発電所で水素爆発事故が生じ、放射能が飛散したからに他ならない。

「福島」が「フクシマ」であることは、「広島」が原爆禁止世界大会の国際会議で「ヒロシマ」という言辞に表示されたことと同じ意味を持つ。しかし、「福島」の人々は・・・

五十嵐伸治(いがらし しんじ)先生のプロフィール

二松学舎大学大学院修士課程修了。宮城県内の公立高校の教諭を勤めた後、現在、宮城学院女子大学学芸学部日本文学科及び仙台白百合女子大学グローバル・スタディーズ学科の非常勤講師。最近の業績に「井上ひさし『花石物語』一吃音症という鎧」(『神経症と文学』、鼎書房、2014年)、「中島らも『貴子の胃袋』—メディアが引き起こした恐怖 精神分裂症—」(『小説の処方箋』、鼎書房、2011年)、「賀川豊彦『死線を越えて』」(『大正宗教小説の流行—その背景と“いま”』、論創社、2011年)がある。

周辺地域を視野に入れて中国と日本の共生的精神文化を考えたら

宝力朝魯 先生(内モンゴル師範大学外国語学院准教授)

講演要旨

仏教は中国・日本・モンゴル地域に与えてきた影響が大きい。儒教も中国・日本・モンゴル地域及びほかの国々と地域に影響を与えてきた。中国も日本も漢字文化圏の国である。日本人の由来について徐福説もあれば、蒙古斑の話もある。要するに、中国・日本・インド・モンゴル地域はお互いに共通点を持っている国々と地域である。みんなで青空の下で同じ日光を浴びて、それぞれの空間があって、水さえあれば、原子力に頼らなくても生きていける時代がやってくると思われる。

宝力朝魯(ボリチョロー)先生のプロフィール

東北大学大学院教育学研究科博士課程修了(教育学博士)。内モンゴル師範大学公共外国語教育学院日本語教室助教、東北大学大学院教育学研究科 外国人特別研究員(日本学術振興会)を経て、現在内モンゴル師範大学外国語学院日本語学部准教授。主な論文に「20世紀90年代以降の日本の方言政策について—その思想と時代背景を中心に—」(胡樹主編『東北亜多元文化共生現状及発展研究』上巻、内蒙古大学出版社、2012年)、「近代化社会で多様な言語の使用と自由平等の関係をどう処理すべきか—そのモデルを中心に—」(『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第54集第2号、2006年)、「明治後期以降における国語教育への上田万年の影響」(『東北大学大学院教育学研究科研究年報』第53集第2号、2005年)がある。

パネルディスカッション(17:15~18:00)

パネリスト

五十嵐伸治 先生

宝力朝魯 先生

山崎甲一 東洋学研究所・研究員(東洋大学文学部教授)

額爾敦巴特爾(エルドンバートル) 東洋学研究所・客員研究員(内モンゴル大学外国語学院准教授)

※終了後午後6時15分(18:15)頃より、学内の第1会議室にて研究交流会(懇親会)を行います。

※東洋大学東洋学研究所では、山崎甲一研究員を研究代表者とする研究所プロジェクト「日本、モンゴル、インド、中国における共生的精神文化の諸相」が平成26年度より3年間の計画で行われています。本研究は、東日本大震災や原子力発電所事故の問題に対峙しながら、これからの生き方や死生観・世界観に架橋していくコトバ・視点を発掘し、点検していくものですが、このたび、五十嵐伸治先生、宝力朝魯先生を講演者にお招きしてシンポジウムを開催する運びとなりました。

定員60名 入場無料・予約不要 皆様のご参加をお待ち申し上げます。

お問い合わせ先 東洋大学東洋学研究所 〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 電話・ファクス 03-3945-7483